

七条中学校だより10月2号

京都市立七条中学校

令和8年10月2日

発行：校長 林 秀雄

校章と校歌に込められた七条中学校の願い

連日お伝えしていますが、七条中学校は創立 70 周年という大きな節目の年を迎えます。

創立 70 周年を迎えるにあたり、七条中学校の歴史を振り返る中で、改めて校章や校歌に目を向けてみたいと思います。

皆さんは毎日、制服や校舎に刻まれた校章を目にし、式典や行事では校歌を歌っています。しかし、その校章や校歌には、学校をつくった先人たちの思いや願いが込められていることを知っているでしょうか。

本校の校章は、学校創立の年である昭和 32 年（1957 年）4 月に制定されました。当時の美術科教諭であった遠藤弥四郎先生が考案されたものです。校章は、当時の学区であった七条学区と七条第三学区の「七」の文字を組み合わせて図案化し、その中央の軸で「条」の文字を表現しています。一見するとシンプルなデザインですが、そこには七条中学校の成り立ちと、地域の人々の思いが込められています。

さらに、この校章には「生徒が純粋な心を持ち、互いに力強く協力しながら、本校の発展と社会への貢献に努めてほしい」という願いが託されています。

今から 70 年前、七条中学校が誕生した頃の生徒たちも、皆さんと同じように学び、悩み、成長しながら学校生活を送っていました。そして、その先輩たちが受け継いできた校章を、今は皆さんが受け継いでいます。校章は単なる学校のマークではなく、「協力すること」「仲間を大切にすること」「社会に役立つ人になること」という七条中学校の理念そのものを表しているのです。

一方、校歌が制定されたのは、学校創立 10 周年を迎えた昭和 41 年（1966 年）でした。それまでも校歌制定については何度も話し合われていましたが、さまざまな事情により実現していませんでした。しかし、創立 10 周年記念式典を機に、元京都市教育研究所長の平井己磨先生に作詞を、京都教育大学の福本正先生に作曲を依頼し、待望の校歌が誕生しました。

校歌の冒頭には、「東山なみ 輝きて 学園の窓 栄光の 差そうひとひ 晴ればれと」という歌詞があります。七条中学校の東に広がる東山の美しい風景と、未来に向かって学ぶ生徒たちの希望に満ちた姿が描かれています。校歌を歌うたびに、私たちは同じ東山を見つめ、同じ学び舎で過ごしていることを実感できます。

また、「ああ我が力 あふれくる その名は七条中学の 清き我ら」という歌詞からは、自らの可能性を信じ、努力し続けようとする強い意志と、七条中学校の生徒としての誇りを感じることができます。

校歌制定当時の記録には、「この校歌を心のふるさととして、在校中はもちろん、卒業後もあらゆる機会に同窓のきずなとして歌い続けるであろう」と記されています。その言葉どおり、多くの卒業生が今でも校歌を覚えており、歌声とともに中学校時代の思い出を懐かしく振り返ります。

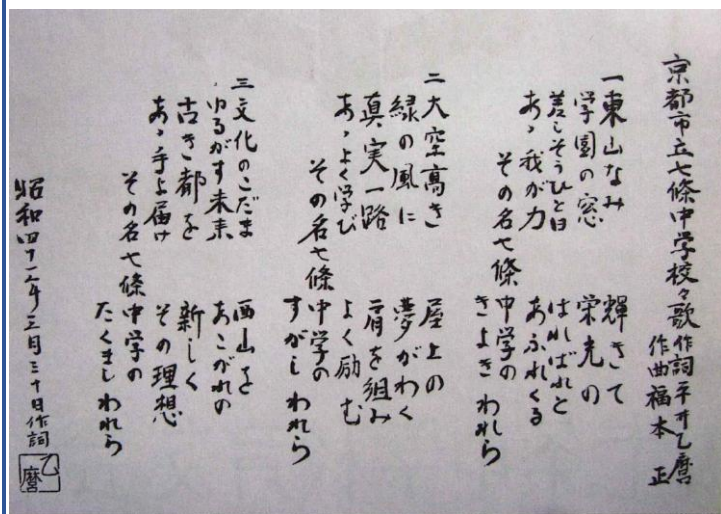
校章も校歌も、長い歴史の中で変わることなく受け継がれてきました。それは、そこに込められた願いが時代を超えて大切なものであり続けているからです。

創立 70 周年という節目を迎えた今、私たちは改めて先輩方が築いてきた伝統の重みを感じています。しかし、伝統とは受け継ぐだけのものではありません。受け継いだものをさらに発展させ、次の世代へと引き継いでいくことが大切です。

皆さん一人一人が、校章に込められた「協力する心」を大切にし、校歌に歌われる「清き我ら」にふさわしい行動を積み重ねてください。そして、70 年の歴史を誇りに思うだけでなく、自分たち自身が七条中学校の新たな歴史の 1 ページをつくっているのだという自覚を持ってほしいと思います。

70 年前の創立の日から続く先輩たちの思いを胸に、これからも七条中学校の伝統とともに築いていきましょう。校章と校歌は、その歩みを静かに、しかし力強く見守り続けてくれるはずです。

裏へ



体育の部予行を終えて

本日は体育の部の予行を行いました。本番当日の開会式や競技の入退場、エントリーの確認をはじめ、各種目の動きや各係の役割・動線などについて、一つひとつ確認しながら進めました。

皆さんは、自分の出番や与えられた役割についてしっかり確認できたでしょうか。また、クラスや色団で競技や応援の作戦、当日の動きについて十分に共有することができたでしょうか。

体育の部は、一人の力だけでつくり上げるものではありません。1年生の「台風の目」、2年生の「大縄跳び」、3年生の「綱引き」、そして縦割り種目の「玉入れ」「リバーシー」「全員リレー」、さらには各種対抗リレーなど、どの競技も仲間との協力やチームワークが勝敗を大きく左右します。一人ひとりが自分の役割を果たし、仲間と声を掛け合いながら力を合わせることで、大きな力が生まれます。

もちろん、体育の部で最も大切なのは結果だけではありません。優勝や上位入賞という目標に向かって、仲間と知恵を出し合い、励まし合い、練習や準備に全力で取り組む。その「過程」こそが、みなさんを成長させてくれるのです。

今、自分たちの取組を振り返ってみてください。本気で練習に取り組んでいるでしょうか。仲間と協力し、より良い方法を考えられているでしょうか。まだ改善できること、できるようになることはありませんか。

体育の部本番まであとわずかです。しかし、まだ時間はあります。応援の声を大きくすることも、競技の作戦を練り直すことも、仲間との連携を深めることもできます。本番当日、「やるべきことはやり切った」と胸を張って言えるよう、残された時間を大切にしてください。

七条中学校の生徒一人ひとりが、仲間とともに全力で取り組む姿を期待しています。体育の部が、皆さんにとって達成感と成長を実感できる素晴らしい一日になることを願っています。

第2回進路保護者説明会を開催しました

9月29日（月）、第2回進路保護者説明会を開催しました。当日はあいにくの雨模様にもかかわらず、全学年合わせて100名を超える保護者の皆様にご参加いただきました。ご多用の中、ご来校いただきましたことに心より感謝申し上げます。

説明会では、主に3年生の進路選択に向けて、進路決定までの見通しや今後の三者懇談、出願手続きの流れなどについて説明を行いました。また、「自分を知る」「相手を知る」「なりたい自分をもつ」という視点を大切にしながら、子どもたち一人ひとりが主体的に進路を選択していくことの重要性についてもお伝えしました。

今年度は、京都府公立高等学校入学者選抜制度の大きな変更が予定されています。これまでの前期・中期・後期選抜の仕組みが見直され、新たな選抜制度へ移行することから、その変更点や出願・検査・合格発表の日程などについて詳しく説明しました。特に、公立高校受験を考えているご家庭にとっては大きな変更となるため、今後も最新の情報を丁寧にお伝えしてまいります。

さらに、公立高校の出願手続きについては、今年度から完全Web出願となります。説明会では、志願者情報の登録から出願、受検票の印刷までの流れや、今後実施予定の試行についても説明しました。私立高校についても、多くの学校でWeb出願が導入されており、保護者の皆様にはご家庭での準備や確認をお願いいたしました。

進路選択は、生徒一人ひとりが自らの将来や「なりたい自分」を考える大切な機会です。学校としても、生徒や保護者の皆様が安心して進路決定に臨めるよう、今後の三者懇談や進路指導を通して丁寧な支援を続けてまいります。